

第4期（2016年度）全13回

ジャーナリズム公開講座

毎月*最終木曜日 18:30~20:30 *7月は21日(木)、12月は15日(木)

入場無料、申込み順先着90名 どなたでも参加いただけます。

会場* B-nest (ビネスト、ペガサート7階) *9月は静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
静岡市葵区御幸町3-2-1 セノバ前、江川町交差点前 駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

健全なジャーナリズムこそ民主主義の基本です。

	<p>第1回／常岡浩介 (『イスラム国とは何か』著者) 4月28日</p> <p>「戦争報道とインテリジェンス」1969年生まれ。早大卒。NBC長崎放送報道記者を経て98年からフリー。アフガニスタン、チェチェン、イラク、シリアなどの戦争を取材。武装組織の幹部や反体制派を直接取材した結果、各国の諜報機関や政府系組織に拉致・誘拐された経験がある。国内では北大生らの私戦予備陰謀事件に絡んで公安警察に自宅搜索され、被疑者宣告されている。著書に『イスラム国とは何か』『ロシア 語られない戦争—チェチェンゲリラ従軍記』、自身の経験を漫画化した作品に『常岡さん、人質になる。』。</p>
	<p>第2回／小川和久 (静岡県立大学特任教授) 5月12日</p> <p>「ジャーナリズムごっこへの決別」1945年熊本県生まれ。陸上自衛隊生徒教育隊・航空学校修了。同志社大学神学部中退。日本海新聞、週刊現代記者を経て1984年、日本初の軍事アナリストとして独立。外交・安全保障・危機管理の分野で政府の政策立案に関わり、国家安全保障に関する官邸機能強化会議議員などを歴任。2012年から現職で静岡県の危機管理体制の見直しに取り組んでいる。『危機管理の死角』『日本人が知らない集団的自衛権』など著書多数。</p>
	<p>第3回／滝野隆浩 (毎日新聞社会部編集委員) 5月26日</p> <p>「自衛隊のリアルとジャーナリズム」1960年長崎県佐世保市生まれ。82年防衛大学校卒業、83年毎日新聞社入社。甲府支局のあと東京社会部で宮崎勤事件を担当。94年以後「サンデー毎日」記者、東京本社社会部防衛庁・省担当記者、「サンデー毎日」編集次長、前橋支局長などを経て現職。著書に『宮崎勤 精神鑑定書—「多重人格説を検証する」』『自衛隊と東日本大震災』『沈黙の自衛隊—知られざる苦悩と変化の60年』『自衛隊のリアル』など。</p>
	<p>第4回／中村登志哉 (名古屋大学教授) 6月30日</p> <p>「広報外交とマス・メディア」1960年愛知県生まれ。85年同志社大学法学部卒、共同通信社入社。1990-91年ベルリン自由大学へ派遣留学。帰国後、外信部記者、ウィーン支局長などとして欧州・安全保障・核問題を担当。豪メルボルン大学政治学博士。平和・安全保障研究所(東京)客員研究員を経て、2004年から県立長崎シーボルト大学(現長崎県立大学)国際情報学部教授、10年から現職(名古屋大学国際言語文化研究科教授・附属グローバルメディア研究センター長)。著書に『ドイツの安全保障政策—平和主義と武力行使』など。</p>
	<p>第5回／元木昌彦 (元『週刊現代』編集長) 7月21日</p> <p>「週刊誌のいま」1945年東京都生まれ。70年講談社入社、90年『FRIDAY』編集長、92-97年『週刊現代』編集長、99年「Web現代」創刊編集長。2007-08年市民参加型メディア「オーマイニュース日本版」編集長、社長。「編集者の学校」を各地で開催、上智大学、法政大学、大正大学、明治学院大学などで「編集学」講師。著書に『「週刊現代」編集長戦記』『週刊誌は死なず』『孤独死ゼロの町づくり』など。</p>
	<p>第6回／今井 一 (ジャーナリスト) 8月25日</p> <p>「国民投票とジャーナリズム」1954年大阪市生まれ。関西大学文学部卒(哲学専修)。1981年からポーランドの民主化運動を取材し、89年『CZESC(チェシチ)!—うねるポーランドへ』でノンフィクション朝日ジャーナル大賞受賞。旧ソ連の国民投票を現地で見聞きして衝撃を受け、帰国後、新潟県巻町や沖縄県名護市の住民投票を取材。2006-07年に衆参両院の憲法調査特別委員会で国民投票のルールについて陳述。スイス、フランス、リトアニア、イギリスなどで実施された国民投票の現地取材を重ねる。『「解釈改憲=大人の知恵」という欺瞞』『「原発」国民投票』など著書多数。</p>

**第7回／石丸次郎 (ビデオジャーナリスト) 9月29日 (あざれあ)**

1962年大阪出身。韓国延世大学語学堂などへの留学から帰国後、在日韓国・朝鮮人問題、韓国の学生運動などを取材。アジアプレス・インターナショナル大阪オフィス代表。北朝鮮取材は同国で3回、朝中国境地帯ではおよそ75回。北朝鮮の人々への取材は800人超。2002年より北朝鮮内部にジャーナリストを育成する活動を開始。07年に『北朝鮮内部からの通信・リズムガン』を創刊、編集人。著書に『北のサラムたちI』など。

**第8回／朝野富三 (元毎日新聞大阪本社編集局長) 10月27日**

早稲田大学第一文学部卒。毎日新聞大阪本社社会部長として日本商事・ソリブジン薬害問題を報道、日本ジャーナリスト会議JGJ賞本賞(1994年)、坂田記念ジャーナリズム賞(95年)を受賞。毎日新聞大阪本社編集局長を経て退職。現在は宝塚大学特任教授。著書に『「三畳小屋」の伝言—陸軍大将今村均の戦後』『ゴー・ストップ事件—昭和史ドキュメント』など。

**第9回／小島正美 (毎日新聞生活報道部編集委員) 11月24日**

「この一年のリスク報道」1951年愛知県犬山市生まれ。1974年愛知県立大学卒、毎日新聞社入社。長野支局、松本支局、東京本社生活家庭部、千葉支局次長を経て、現在は生活報道部編集委員。東京理科大学非常勤講師。『誤解だらけの遺伝子組み換え作物』『メディアを読み解く力』『誤解だらけの放射能ニュース』『こうしてニュースは造られる』など著書多数。

**第10回／楊井人文 (日本報道検証機構代表理事、弁護士) 12月15日**

「今年の誤報」1980年、大阪市生まれ。2002年、慶應義塾大学総合政策学部を卒業。産経新聞記者を経て、08年弁護士登録。2012年春、日本報道検証機構を立ち上げ、マスコミ誤報検証サイトGoHooを運営。報道品質の向上をミッションに掲げ、訂正報道。社会起業大学のソーシャルビジネスグランプリ審査員特別賞を受賞。

**第11回／柴山哲也 (立命館大学客員教授) 1月26日**

「真珠湾の真実」同志社大大学院新聞学科中退。1970年朝日新聞社入社、朝日ジャーナル編集部、戦後50年企画本部等に在職後退社。ハワイ大学、イースト・ウエスト・センター、京都大学、国際日本文化研究センター、京都女子大学などの教職を経て現職。著書に『真珠湾の真実』『新京都学派』『日本はなぜ世界で認められないのか—「国際感覚」のズレを読み解く』『日本型メディア・システムの興亡』など。

**第12回／花田紀凱 (『月刊Hanada』編集長) 2月23日**

1942年東京生まれ。66年東京外大卒、文藝春秋入社。88年『週刊文春』編集長に就任、部数を総合週刊誌1位に伸ばす。94年『マルコポーロ』編集長に就任、部数を伸ばしたが、95年にホロコースト否定説の掲載が問題となり辞任、翌年退社。以後『uno!』『編集会議』などの編集長を歴任。2004年11月に創刊された『WiLL』の編集長に就任。2016年3月にワック出版から飛鳥新社へ移籍し『月刊Hanada』を創刊。『産経新聞』に「週刊誌ウォッチング」を連載中。

**第13回／坂本 衛 (放送批評懇談会理事) 3月30日**

「テレビのいま」1958年東京都生まれ。早稲田大学政治経済学部政治学科中退。在学中から週刊誌、月刊誌などで取材執筆活動を開始。放送批評懇談会理事。同会「放送批評」「GALAC」編集長、ギャラクシー賞報道活動部門委員長などを歴任。日本大学芸術学部放送学科非常勤講師。「オフレコ!」副編集長。著書に『「地デジ化」の大問題』『官僚たちの熱き日々』など。

静岡県立大学ジャーナリズム公開講座 受講申込書

氏名	フリガナ		
	様		
住所	〒		
電話番号		職業	
E-mail/Fax		年齢	歳

お申込先はFAX:054-245-5603またはnishi@u-shizuoka-ken.ac.jp
前日までにお申込みできない場合、当日に受付で申込書にご記入ください。